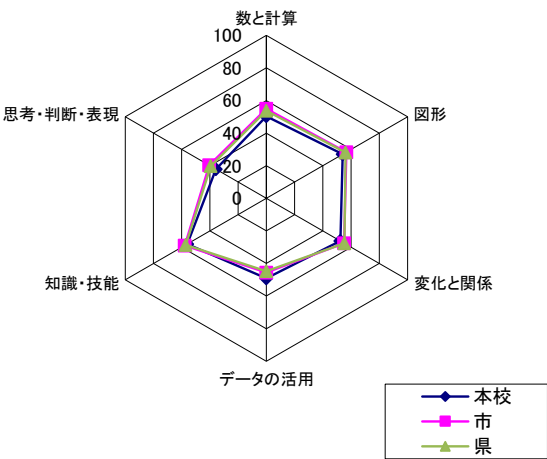


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.3	54.9	53.7
	図形	54.0	56.6	56.1
	変化と関係	52.5	55.1	55.2
	データの活用	49.1	45.5	44.8
観点	知識・技能	56.1	57.8	57.2
	思考・判断・表現	35.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○数直線上にあらわされた分数について同じ大きさの分数の組み合わせを選ぶ問題の正答率は80.4%で、県の正答率を6.8ポイント上回った。 ●数直線をもとに、小数の仕組みについて答える問題の正答率が55.4%で、県の正答率を14.2ポイント下回った。 ●除法の性質を利用した計算の工夫について説明する問題の正答率は8.9%で、県の正答率を10.9ポイント下回った。 ●式の意味と言葉で表したものを正しく組み合わせる問題の正答率は53.6%で、県の正答率を8.8ポイント下回った。	・分数の学習では、授業の中で数直線を活用して数の大きさを実感できるようにすると共に、分数の仮分数と帯分数の変換について再度確認し、朝の学習等で復習を行う。 ・小数の問題では、10倍・100倍…としたときに、小数がどのように変わっていくか関連する学習で繰り返し復習し定着を図る。 ・除法の学習では、除法の性質を理解して計算できるように基礎的な部分について繰り返し指導していく。そこで得た技能の活用の仕方については、授業の中で具体的な活用の仕方を示し実践する機会を設ける。 ・式の意味についての問題では、関連する学習で式の表す内容を考える機会を授業の中で多く作り、習熟を図る。
図形	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●三角定規を利用して、正しい角度を求める問題の正答率は43.8%で、県の正答率を4.4ポイント下回った。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率は41.1%で、県の正答率を7.0ポイント下回った。	・図形の学習では、三角形や四角形の性質を利用して角度を求める問題に取り組む場を多く設け、計算で角度を求める力が身に付くように繰り返し指導を行う。 ・角の大きさについては、分度器の正しい読み方について復習すると共に、180度より大きい角度の求め方についても確認する。また、三角定規の角の大きさについても確認し、定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題の正答率は83.9%で、県の正答率をやや上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式で表す問題の正答率は25.9%で県の正答率を15.5ポイント下回った。	・伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付けるように指導をしていく。また、それを自分の言葉や式で説明する場面を授業の中に設定し、自分の考えを言葉で表現できるようにする。
データの活用	平均正答率は、県の平均と比べて、やや高い。 ○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題の正答率は、県の平均正答率をやや上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る問題の正答率は43.8%で、県の平均正答率を2.2ポイント下回った。	・折れ線グラフや棒グラフの学習では、数値を読み取るだけでなく、数値の変化から分かることを読み取る活動を授業に多く取り入れ、定着を図る。また、算数の以外の様々な教科でもグラフや表などの資料から情報を読み取り表現する活動を効果的に取り入れ、活用する力を身に付けさせる。